

2019 年 1 月 6 日

編輯 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

エペソ 4:32

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

リチャード・N・ADY
オレゴン州 グレシヤム

1月1日(火)

後悔しないために好機を捉えて

聖書朗読 イザヤ 6：1～8

「ここに、私がおります。私をお遣わしてください。」 イザヤ 6：8

先日、私はこれまでの人生に後悔があるかと聞かれる機会があったので、過去を振り返って考えてみました。私は自分が良い選択をした時よりも愚かな選択をした時の方が、神様の愛と赦しに気づかされたような気がします。私の後悔は、神様が好機を示してくださっているにもかかわらず、それに気づけなかったことだと思います。皆さんはいかがですか。

イザヤは、自分の思いが捕えられた主とともに親しく交わり、あらゆる感覚をもって神様のご臨在を体験しています。王座に座しておられる主のご栄光を目で見て、セラフィムが主を称えるのを耳で聞き、敷居の基がゆるぎ宮の煙が立ち上るのを見て、恐らくその香りも嗅いだことでしょう。また、彼は自らの汚れ、不完全さ、聖さとは掛け離れた存在であることを認め、へりくだって語っています。セラフィム（御使い）は、主の祭壇から炭を取りイザヤの口びるに触れ、彼の不義と罪を取り去ってくださいました。イザヤはそれを信じ、主が「だれを遣わそう」と言われたとき、「私を遣わしてください」と答えたのです。

皆さんもイザヤと同じように、目で見て、耳で聞いて、そして感じることの出来るような、主との親しい交わりをしていますか。その時どう応答していますか。恐れてはいませんか。後に後悔することのないようにしましょう。謙虚な姿勢をもって、あなたの前に差し出された好機を捉えましょう。さあ、実践してみましょう。

讃美歌 297

祈り 親愛なる主よ。あなた様が私たちの前に差し出してくださる好機を確実に捉えることが出来るようにしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

エリン・E・ムセンドリー
テキサス州 ミルサップ

1月2日(水)

暗闇を光へ

聖書朗読 イザヤ 9：1～7

この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。
光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

ヨハネ 1：4～5

暗闇。暗黒。聖書では、ゼブルンとナフタリの地に住む部族の霊的な状態をこのような言葉で表しています。

なぜ彼らは霊的にそれほど暗闇だったのでしょうか。それは彼らの罪の故でした。悔い改めることをかたくなに拒んだために、神様は彼らをアッシリアに捕えさせられたのです。

けれどもそれでも、神様は救いのご計画も持っておられたのですが、そのような暗黒の地にいずれ偉大な光がもたらされるなどと、誰が想像できたでしょう。

新約聖書でマタイは、イザヤ書の箇所を引用し、ガリラヤでのイエス様の宣教のお働きと癒しの御業について記していますが（マタイ4：12～25）、イエス様こそイザヤの語った『偉大な光』であり、その光は、かつて神様から見放されるに値するような地にあった民の暗闇を一掃してくださる光でした。

このイエス様の光は、ガリラヤに留まるものではありません。主は、『わたしは世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』（ヨハネ8：12）と言っておられます。

暗黒に栄光が現れ、暗闇には光がもたらされます。それは今も昔も変わることがありません。

讃美歌 453

祈り お父様。私たちを暗闇から驚くべき光へと導いてくださったあなた様を褒め称えます。暗い世に光をもたらすものとして私たちをお用いください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

デイビッド・ギブソン
テキサス州 コマース

1月3日（木）

誰が戻しえよう

聖書朗読 イザヤ43：8～15

わたしは神だ。わたしの手から救い出せる者はなく、わたしが事を行えば、誰がそれを戻しえよう。
イザヤ 43：13

「家も神殿も失い、馴染のある香りも店も周囲の人々も皆すべて失ってしまった。」エルサレム崩壊の後、遠く離れたバビロンで捕らわれの身となり、このような状況にあった民は、自らの無力さを痛感したことでしょう。

私たちもこのような痛みの感情がよく分かります。すべてがうまく行かず、不慣れなことばかりで、将来に全く光が見えないとき、人生が自分の行く手を阻んでいるように思うことがあります。

イザヤは、家を失い希望もない放浪の民に、その置かれた状況に対する別の見方を促しています。自分たちの状況をすべて手に収めておられるお方はどなたかと問い、混沌とした状況でさえ、支配しておられるのは神様だということを民に確信させています。そして、そうであれば輝く未来を妨げるものなどあるかと彼らに問うています。

個人的に味わう喪失感も自分に反対する勢力も諸外国の王も病も、いかなる敵であれ、神様より強力で私たちを支配出来るものなどありません。誰も救い出す道を見出せないとき、神様が救い出してください。窮地にある時、『わたしが事を行えば、誰がそれを戻しえよう。』とあるように、神様のお働きを妨げるものなどないと言うことを私たちに思い出させながら、そばにやって来てくださるのです。

今度、窮地に直面したら、「神様のなさることを誰も戻しえない」と言うことを思い出してください。

讃美歌 398

祈り 親愛なる神様。私たちはときに、すべてを失ってしまったと落胆することがあります。あなた様の御手は強く、その御手で私たちを救い出してください。あなた様が私たちとともにいてくださるなら、誰もあなた様を妨げることは出来ないことを改めて確信させてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ハロルド・シャンク
オクラホマ州 エドモンド

1月4日（金）

立ち上がって輝け

聖書朗読 イザヤ 60：1～9

すべてのことを、つぶやかず、疑わずに行いなさい。

それは、あなたがたが、非難されるところのない純真な者となり、また、曲がった邪悪な世代の中にあって傷のない神の子どもとなり、いのちのことばをしっかり握って、彼らの間で世の光として輝くためです。
ピリピ 2：1

4～16

イエス様は『わたしは世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。』（ヨハネ8：12），『あなたがたは、世界の光です。』（マタイ5：14）と言っておられます。

私たちは暗闇の世に生きていますが、聖書には『見よ。やみが地をおおい、暗やみが諸国の民をおおっている。しかし、あなたの上には主が輝き、その栄光があなたの上に現れる。』（イザヤ60：2）という真理が示されています。

この世の様々なニュースを耳にし、気をくじかれることが多くありますが、私たちは何者で、いかなる存在であり、またどなたに属する者なのかを忘れてはなりません。私たちは、イエス様に従う者としてその光を現す者です。毎朝日が昇るように、神様は日々昇られそのご栄光を現しておられます。

職場、学校あるいは家庭でも、支配的な存在があったり、あるいは、不平ばかり言う人がいたりするかもしれませんが、そうした人たちに関わらないようにしましょう。立ち上がって輝きましょう。そして『晴れやかに』（イザヤ60：5）なりましょう。周囲の人はあなたが輝かせる光を見るでしょう。

讃美歌 87

祈り 主よ。あなた様のご栄光を私たちを通して現し、あなた様の輝きによって人々の道を照らしてください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ラリー・ブラナム
アーカンソー州 スプリングデール

1月5日 (土)

義 の 為 の 嘆 き

聖書朗読 エレミア 50:33~38

あなたは、私のさすらいをしるしておられます。どうか私の涙を、あなたの皮袋になくわえてください。それはあなたの書には、ないのでしょか。 詩篇 56:8

「嘆きは、よみがえりの信仰を持つ者にはふさわしくない」。恐らく人生の破滅を経験するまでは、こう思えるでしょう。また、「私たちの敵を罰することを神様に願う祈りは良くない」という思いも、実際に敵が自分を傷つけようとするまではそう思えるでしょう。

エレミア50章では、捕らわれた民が崩壊した母国と神殿を見て嘆く様子とともに、彼らの解放への希望と義について描かれています。崩壊をもたらしたのは、他ならぬユダの民自身の罪であり、彼らの苦しみは和らぐことなく、圧制者からの解放もありませんでした。神様は、ご自身の民を裁かれる（と同時に救われる）ために、「悪に満ちた敵であるバビロン」を選ばれたのですが、またその敵をも罰してくださっています。

もし嘆きが相応しくないとしたら、エレミアはこうした言葉を残さなかったでしょうし、イエス様もエルサレムのために涙を流して嘆かれることもなかったでしょう。もし、悪を行う者に対し神様の裁きを求めることが悪いことだとしたら、天国にいる殉教者たちの魂は、『血の復讐』（黙示録6:10）を神様に叫び求めることはなかったでしょう。

エレミア50章は、私たちに自己憐憫を促したり、報復的な姿勢を認めたりするものではありません。そうではなく、私たちが正直に心にある傷も希望も怒りもすべて主に明かし、主の愛なる義に信頼することを求めているのです。

讃美歌 312

祈 り アバ父よ。私たちの内にあるすべてをあなた様の御前に差し出すよう促してください。感謝します。私たちには、嘆き悲しみがありますが、私たちの敵とそれに従う者たちから私たちをお救いください。主よ、すぐに来てください。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

ティモシー・W・ケリー
コロラド州 リトルトン

1月6日(日)

絶えることのない神様の憐れみ

聖書朗読 哀歌 3:19~27

主であるわたしは変わることがない。

マラキ 3:6

哀歌は、エルサレムの状況に対するエレミアの嘆きの理由がつづられています。エレミアは、かつての大いなる国は『やもめのようになった。』（哀歌1:1）と記しています。けれども、そのような絶望と不安の只中にあっても、エレミアは、神様の憐れみと慈しみは絶えることがなく、その御愛はご自身を求める者をその試練に耐えさせてくださると言っています。神様の慈しみは日々新たにされます。一日たりともその慈しみと憐れみが注がれない日はありません。主は、エルサレムの苦しむ人々にも希望を与えてくださいました。

神様は、私たちに悩みや不安から解放された人生を約束されているのではありません。そうではなく、私たちが困難に直面した時にともにいてくださることを約束しておられるのです。詩篇の著者はこう記しています。『正しい者の悩みは多い。しかし、主はそのすべてから彼を救い出される。』（詩篇34:19）

常に世の王座につくのは悪であり、真理はすぐ取り壊される足場のよう。

しかしやがてその真理の足場が揺れ動く。

薄暗い影の向こうに、上からすべてを見守られる神が立たれるのだ。

————James Russell Lowell

讃美歌 82

祈 り 親愛なるお父様。私たちがあなた様に信頼し拠り頼むことが出来るようにしてください。私たちが弱さを覚えるとき強さを、恐れのあるときに勇気を与え、助けが必要な時にはどうか助けてくださいますように。

イエス様のお名前によって祈ります。アーメン。

アラン・E・ハイアー
テネシー州 ヘンダーソン